サツマイモ基腐病の前作土壌汚染度に応じた総合防除の指標

基腐病対策は前作土壌汚染度が最も影響し，汚染度に応じて品種，薬剤防除，早植え・早掘りを組み合わせた総合防除が必要

背景・目的

・サツマイモ基腐病（以下，基腐病）に対して，抵抗性品種の活用や薬剤防除が有効
・サツマイモ栽培指導では，基腐病発生程度に応じて，早植え・早掘り等の対策をしているが，対策の影響程度が不明
・前作土壌汚染度，品種，栽培期間，作付時期，薬剤防除圧の5つの要因が，防除効果に及ぼす影響を検証

成果の内容

・防除効果への影響は前作土壌汚染度が最も大きく，次いで品種，栽培期間，作付時期，薬剤防除圧の順に大きい（図1）
・汚染度【少】では，抵抗性品種を用い，適期収穫を行う（図2）
・汚染度【中】では，抵抗性品種を用い，適期収穫を行うことに加え，農薬防除を行う（図2）
・汚染度【多】では，抵抗性品種に加え，早植え・早掘り，薬剤防除を組み合わせた総合防除対策が必要。特に抵抗性の弱い品種でその効果が大きい（図2，3）

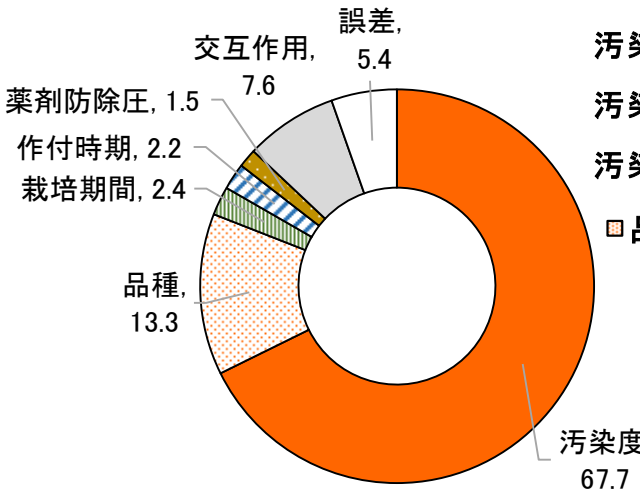

図1　基腐病に及ぼす各要因の寄与率

注1）各区の基腐病累計発病株率に対する各防除要因の寄与率を分散分析により算出

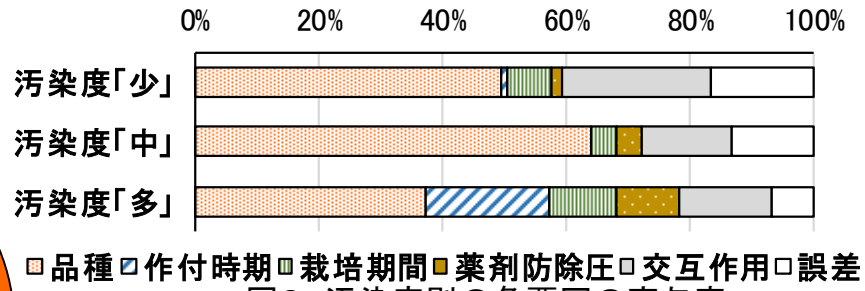

図2　汚染度別の各要因の寄与率

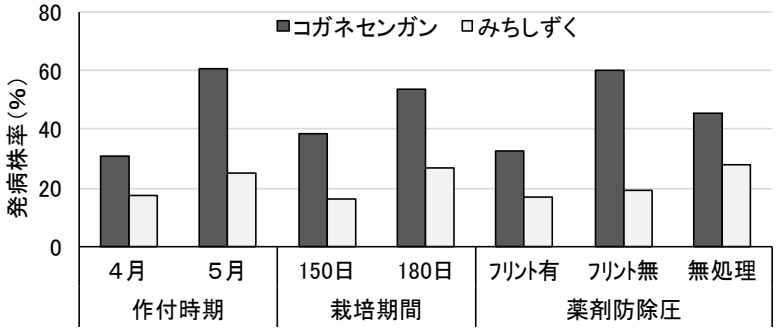

図3　汚染度「多」の要因別発病株率（%）

期待される成果

・前作の土壌汚染度をもとに，次作の品種，栽培期間，薬剤防除の有無など対策の組み合わせを計画

効率的な総合防除対策により，収穫時の発病を低く抑制

○普及対象・範囲
県内サツマイモ生産者・技術員

＜本情報の栽培条件等＞
・品種　「コガネセンガン」，「みちしずく」
・栽培期間　植付150日，180日
・植付日　4月18日（4月植え），5月16日（5月植え）
・施肥量　N：P：K＝8：12：24kg/10a
・栽植密度　畝間90cm×30cm（370株/a）
・薬剤防除　（フリントあり体系，フリントなし体系，無処理）
・土壌汚染度の目安
前作発病株率5%未満：「微少」，5～10%未満：「少」
10～20%未満：「中」，20%以上：「多」

鹿児島県農業開発総合センター
生産環境部　病理昆虫研究室

（戦略的スマート農業技術等の開発・改良）（R06）